

長岡京跡隣接地の範囲確認発掘調査

調査期間：令和4年 2月24日（木）～ 3月11日（金）

調査機関：京都市 文化市民局 文化芸術都市推進室 文化財保護課



1 発掘調査について

京都市は都市の利便性の向上及び地域の活性化を図ることを目的に、JR 向日町駅へのアクセス道路となる向日町上烏羽線の未整備区間（国道 171 号線から久世殿城町）の整備事業を進めています。整備計画予定地の東側は、弥生時代の集落跡である「中久世遺跡」や久世氏によって築城されたとされる「下久世城跡」に該当していることから、発掘調査などが必要であると判断しています。一方、向日市域に近い西側(南区久世殿城内)は、現在周知の埋蔵文化財包蔵地に指定されていません。しかし、近年の向日市域の発掘調査によって、「長岡京跡」及び「野田遺跡」の範囲が本計画予定地まで広がる可能性が高くなりました。そこで、今回道路建設課と協議を重ね、遺跡の展開状況を把握することを目的とした範囲確認調査を実施しました（図1）。

2 周辺の遺跡の様相

調査地の南側には、弥生時代から古墳時代にかけての集落跡である「野田遺跡」と桓武天皇が延暦3年（784）に遷都した「長岡京跡」が展開しています。

野田遺跡は住居址などは確認されていませんが、旧寺戸川を利用した灌漑用水や水利施設が発見されたことにより、旧寺戸川を中心に水田域が広がっていたことが明らかにされています（図2）。また、水田域の周辺で縄文から古墳時代の遺物がまとまって出土することから、水田の周辺に集落があったと想定されています。一方、長岡京はこれまでに、複数の条坊復元案が提示されていますが、未だに結論はでていません。とくに調査地付近の発掘調査によって、北限とされている北京極大路の北側に道路側溝が延長することが確認されており、条坊施工範囲が見直されつつあります。

3 今回の発掘調査成果

今回は道路整備予定地の2か所に調査区を設定しました（図1）。なお、本調査目的が遺構の確認であることから、掘削は部分的な断ち割りに留めています。

1区で時期不明の柱穴（図3・4）、2区で長岡京期の遺物を含む土坑と弥生から古墳時代の流路を確認しました（図5・6）。2区西側で確認した流路は、調査区外に向かって緩やかに下がっていきます。調査区内で確認することができた幅は約 2.5 ～ 3.2 m です。埋土の大部分がシルト質で時間をかけて徐々に堆積していると考えられますが、部分的に微砂が含まれていることから、一時緩やかな流れがあったことが分かります。また、埋土から小片の弥生から古墳時代の土師器が出土していることから、野田遺跡に関わる遺構と推測できます。流路は北西から南東方向に向かっており、調査地の南側を流れる旧寺戸川に合流する可能性が高いと思われます。前章で述べた通り、向日市域で確認されている流路には、水利施設が設けられていることから、今回確認した流路にも同様の施設が設けられている可能性は十分にあると言えます。また、2区の土坑から長岡京期から平安時代の須恵器片が出土したことにより、当該地周辺でも長岡京期から平安時代にかけて土地利用が行われていた可能性が高まったと言えます。なお、1区で確認した柱穴は時期の確定には至りませんでしたが、掘方が隅丸方形であることから長岡京期の可能性も捨てきれません。

以上の通り、今回の発掘調査により、周知の埋蔵文化財包蔵地外で「野田遺跡」及び「長岡京跡」に関わる遺構を確認することができました。今回の調査区は狭所であることから、遺構の性格などを解明するには至りませんでした。引き続き、遺跡の範囲を正確に把握するための継続的な調査を行いたいと考えています。（鈴木久史）

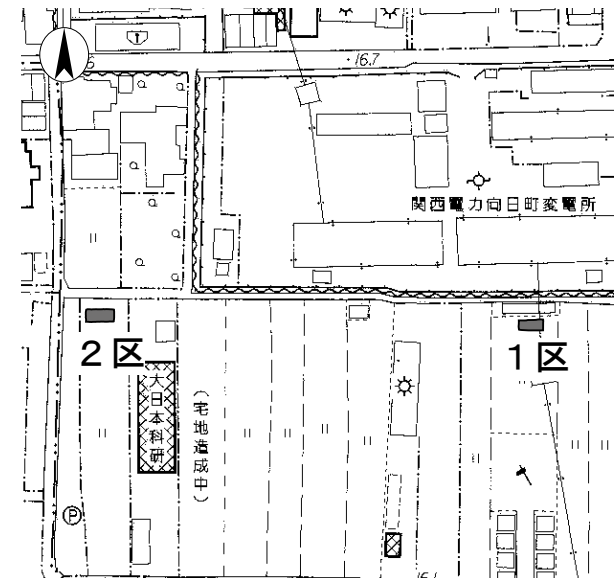


図1 調査地位置図

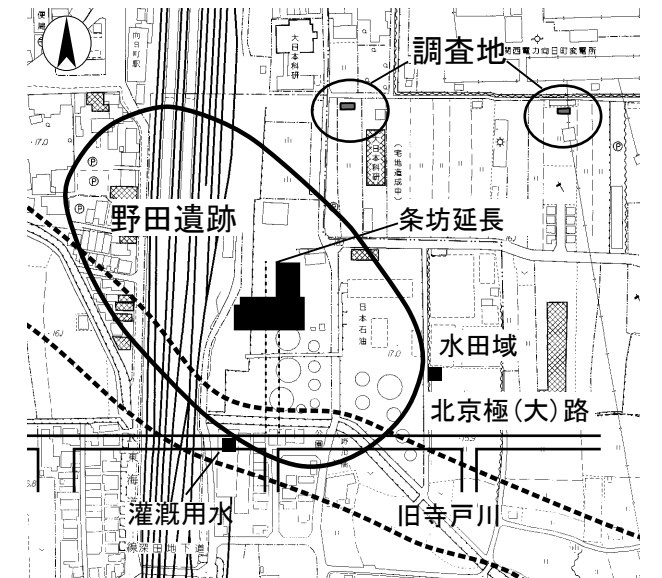


図2 周辺遺跡との関係



図3 1区全景（東から）



図4 柱穴（東から）



図5 2区全景（東から）



図6 流路・土坑（北東から）